ティーチング・ポートフォリオ

大学名　湘南医療大学
所　属　保健医療学部 看護学科
名　前　相澤 恵子
作成日　2025 年 5 月 30 日

1. 教育の責任

担当科目:ナーシングスキル学Ⅰ(1 年後期)、ナーシングスキル学(2 年前期)、ナーシングプロセスⅠ(2 年前期)、看護管理学(3 年前期)、看護基盤実習Ⅰ(1 年前期)、看護基盤実習Ⅱ(2 年後期)、統合実習(4 年前期)

教育活動:2 年生チューター

学務分掌:教務委員、入試広報委員

責務:授業や委員会活動を通して、教育の質向上に貢献することである。本学では、全科目において、領域横断的に複数の教員により授業を行っている点が特徴であり、教育の質向上には教員間の協働が必須である。教員間のコミュニケーションを密にし、全体最適を判断しつつ、計画的に授業準備を実施できる体制の強化に寄与する。

2. 私の理念・目的

1) 私の理念

看護の目的は、Person- centered care の視点で対象者の尊厳を守り、その人らしい健康と QOL を支えることにある。看護基礎教育は、この目的を果たす看護職を育成するため、学生が看護専門職に必要な信念の土台を築き、全人的アセスメントに基づいて自律的に看護実践を遂行する素地、並びに組織文化の発展に寄与するリーダーシップを育むものと位置付ける。この実現にあたっては、実習・演習の体験を省察して判断力を高める思考力、チームおよび多職種との協働を通じて最善のケアを実践・提案する力、そしてエビデンスを批判的に吟味しながら学び続ける姿勢を養う学習機会が不可欠だと考える。これらの能力の育成は、本学の理念「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」を具現化する取り組みであり、卒業生が将来、看護実践と組織文化の改善に積極的に関わることのできる専門職として成長する礎となる。

2) 理念をもつに至った背景

私が教育理念の柱を「自律的に看護実践を遂行する力」と「組織文化の発展に寄与するリーダーシップ」の育成に据えたのは、臨床経験、大学院等での看護管理学の学び、立教大学グローバル・リーダーシップ・プログラム(GLP)の見学の三つの経験に依る。

臨床では、中堅看護師と看護管理者が率先して患者の尊厳を守る取り組みを始めたことで、病棟全体の価値規範と行動が変容する過程を目の当たりにした。この体験から、日々の看護実践には組織文化を動かす力があり、そこに働きかけるリーダーシップが欠かせないと感じた。大学院等では、制度・組織・個人が相互に作用して看護の質を形づくる構造や機能を学び、看護をより良くするには、制度・政策を創る者、組織の看護管理者、そして個々の看護専門職が、それぞれ自律的に判断し行動する力を基盤に活動することが不可欠だと理解した。GLP の見学では、権限に依存しないシェアド・リーダーシップに触れ、誰もが強みを生かして協働すれば組織文化は継続的に好転し、それを基礎教育

で培うことも可能だと確信した。

これらの経験から、学生が省察によって自律的に看護の実践力を高め、組織に良い影響をもたらすリーダーシップを発揮できる専門職として成長できるよう支援する、という理念に至った。

3) 教育の方法・戦略

看護管理学の教育においては、制度的枠組みや理論的概念といった抽象的知識を、看護の現場で生じる具体的な事象と結びつけて理解できるよう支援することが重要である。とりわけ看護提供方式のように、組織の構造や人的資源の配分が多層的に連関し、ケアの質に直結する領域においては、抽象的な知識と具体的事象を相互に行き来させる教育設計が有効であると考える。私は、学生が「自律的に看護実践を遂行できる力」と「組織文化の発展に寄与するリーダーシップ」を育むことができるよう、以下の四つの方針を軸に教育計画を構成している。各方針の下に挙げる箇条書きは、その方針を具現化する主な実践例である。

方針 1：抽象的知識と具体的知識の往還を図る

- 制度や理論を概念図やフレームワークを活用して視覚化し、要点を整理した資料を用いる。
- 抽象概念と臨床でのエピソードとを結びつけて説明する。

方針 2：省察的・体験的な学習を強化する

- 知識を応用するための思考力を養うために、ロールプレイやディスカッションを取り入れる。授業後の課題では「学びを現場でどのように活かすか」を問うことで省察する習慣を促す。
- 演習では、ストーリー展開に学生の裁量を持たせ、自律的に判断する機会を設ける。

方針 3：Person− centered care の視点を養う

- 組織文化によい影響をもたらすリーダーシップの基盤として、看護提供方式の演習シナリオには「その人らしさ」や「尊厳への配慮」といった Person- centered care の視点を組み込み、業務効率だけでなく、看護の効果性について考察できる設計とする。
- 上記演習において、多様な患者像を設定し、価値観を尊重したケアの実現に向けてチームで検討する時間を設ける。
- 同演習では、看護師と患者の両方の視点から省察し、チームや組織への働きかけの意義を理解する機会を提供する。

方針 4：リーダーシップを実践的に培う

- 協働が不可欠な演習を設計し、学生全員がリーダーシップを発揮する状況をつくる。
- 学生が自己のリーダーシップ行動とチーム機能を自己評価・相互評価する機会を設ける。

4） 学習成果

着任間もないため、現時点での実績はないが、今後の授業においては以下の方法で学習成果を評価する予定である。

- 本学で年 2 回実施される「学生による授業評価アンケート」を活用し、授業改善に役立てる。
- 事後課題や試験の得点を通じて、学生の到達目標の達成度を把握する。

5） 改善のための努力

上記の学習成果の評価結果、および授業中の学生の反応などを踏まえ、改善計画を立案する予定である。

6） 今後の目標

短期目標:

- 看護管理学において担当する授業・演習において、9 割以上の学生が到達目標を達成できる。（2025 年度前期）
- 基盤共通看護領域に係る授業準備、教務委員会、入試・広報委員会、チューターの活動を通じて、本学の教育に係る動きと課題を整理する。（2025 年度）

長期目標

- 学生が自らの信念に基づいて自律して看護を実践し、多職種と協働して組織文化に良い影響を与えうる基盤的能力を身につけるよう支援する教育を展開する。